

✦ 郷土料理を考案 キッコーマンしょうゆ塾

岩戸小学校の6年生が、7月に行った「企業のプロフェッショナルとすべての学校をつなぎたい」プロジェクト。キッコーマン株式会社による「しょうゆ塾～自分たちの郷土料理を考えよう～」の2回目が行われました。

前回、しょうゆの作り方やしょうゆが使われている食べもの、魅力などについて学んだ子どもたちは、今回の授業に向けた地元の郷土料理を考案し発表する課題に取り組みました。

子どもたちは4班に分かれ、高千穂牛や米、野菜、ゆずなどを使った「オリジナルかつぼ鶏」「高千穂牛チャーハン」「高千穂牛とチキン南蛮のもりもり定食」「高千穂牛お好み焼き」のアイデアを発表しました。

講師であるキッコーマン株式会社の石原さんは「すばらしいアイデア。実際のメニューとなって地域活性化につながるといい」などと講評を述べました。

「高千穂牛おこのみやき」を発表した稲葉智也さんは、「お好み焼きを作っているときに思いついた。実際にはまだ作っていないが、高千穂牛をうまく切ったり、ふんわりと焼くことを心掛けながら実際に作ってみたい」と話しました。



農 仕入れから販売まで 産物販売プロジェクト

高千穂高校2年生の農産物販売プロジェクトメンバーが、がまだせ市場鬼八の蔵で町内産のトマトやナス、ぶどう、栗など9品目の販売会を行いました。

メンバーらは世界農業遺産に関わる農業をテーマとした探究学習において、農産品の知名度を上げるためにマーケティングや販売を行うことを計画。鬼八の蔵や農家などの協力により実現しました。

情報ソリューション科の甲斐貴翔さんは「県外の方が購入し地元野菜のPRとなった。季節ごとに販売できればと考えているが、今回協力してくれた方に迷惑をかけたので、事前準備をしっかりとりたい」と話しました。



上 さまざまな体験 上野ハローワーク教室

上野小学校で、「上野ハローワーク」が行われました。いろいろな職業について知り、学ぶ機会を得ることで、働くことやふるさとへの関心や意欲を高めようと、キャリア教育の一環として毎年開催。

今回は、地元企業の株式会社工藤興業の佐藤郁朗さんと高千穂高校教諭で相撲部顧問の堀慎太郎さんが講師を務めました。

堀さんは、1～3年生を対象に相撲指導。四股の踏み方やすり足などを教えたあと、個人・団体で相撲対決。力比べで押し出したり、ぐるぐる回りながら土俵を割るなど白熱した闘いが繰り広げられました。

佐藤さんは、4～6年生を対象に道路や橋りょう、トンネルなどの建設工事や若手技術者の育成、ボランティア活動など会社の取り組みを説明。「いろいろなことに興味をもち、いろいろな角度から見て成長してほしい」と助言。物づくりの楽しさや完成時の達成感、地図や歴史、記録に残る誇らしさなど魅力を伝えました。その後、上野体育館に移動し、測量機器を使って天井の高さや壁までの距離を測るなどの体験をしました。



心 命を大切に のSOSの対応講話

押方小学校で、町福祉総合センターの保健師と西臼杵子ども・障がい者ネットワークセンターの職員を講師に迎え、5・6年生とその保護者を対象とした「心のSOSの対応」についての講話が行われました。

ストレスなどを溜めないためにも、運動をしたり歌をうたったりといった好きなことをすることで、気をまぎらわしたり安心できることを多く知っておくとよい。それでもつらくなったときには、勇気をもって大人に話すこと。信頼できる人や相談しやすい人に話したり、相談所に連絡することしてほしいなど対処法について説明がありました。

自分を守るために逃げることも大切です。苦しくてもきっと終わりがあることから、ひとりで悩まず勇気をもって話すこと。一人ひとりの命を大切にしましょうと話しました。



え 来年の干支 りものづくりに挑戦

押方小学校で、えりものづくりの体験を行いました。

クラブ活動の時間として、甲斐愛光さんを講師に迎え、来年の干支である午のえりものに挑戦しました。

甲斐さんの説明のあと、こどもたちは黙々と集中しながら型を切り進めました。

切り終えたえりものは、赤と緑の色紙それぞれを敷いてラミネート加工し完成させました。

5年生の平嶋稟主夢さんは「細かいところがむずかしかったけどうまくできた。家族に見せて玄関に飾りたい」と話しました。



ヒ アフリカズ ッチハイクで紙芝居旅

田原小学校で、ヒッチハイクによる紙芝居旅で世界を巡る旅をしている「アフリカズ」さんのお話し会と紙芝居が、保護者と地域の方を招いて行われました。

アフリカズこと高須多明さんは、「幸せとは何か」を考えるようになり、小学生の頃に見ていた「アフリカの人とたき火を囲んで踊る夢」にあこがれ、「幸せの原点」を求めて2011年からアフリカを巡り始めました。

現地の衣装を身にまとったアフリカズさんは、これまで旅してきたアフリカの国々の様子や現地の人々の暮らしなどを紹介。現在、2050年までに100か国以上1万人が移住できる理想の場所として、ウガンダに建設中のエコビレッジについて話しました。

旅をする中で、世界では宗教や恋愛の文脈という限定的な愛のみが語られる事が多く、もっとフラットでピュアで包括的な形で愛を伝えたいと思い紙芝居を制作。友人に絵や音楽を依頼し完成させ、今年1月から紙芝居を読み聞かせながら日本を旅しています。

